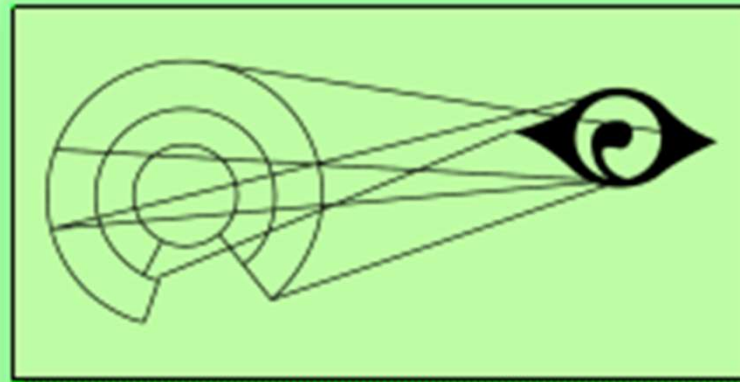


# 《 説明 》

## 共同研究について



期日 令和8年(2026年)8月27日(木)

場所 釧路町公民館

北海道教育研究所連盟共同研究推進委員会

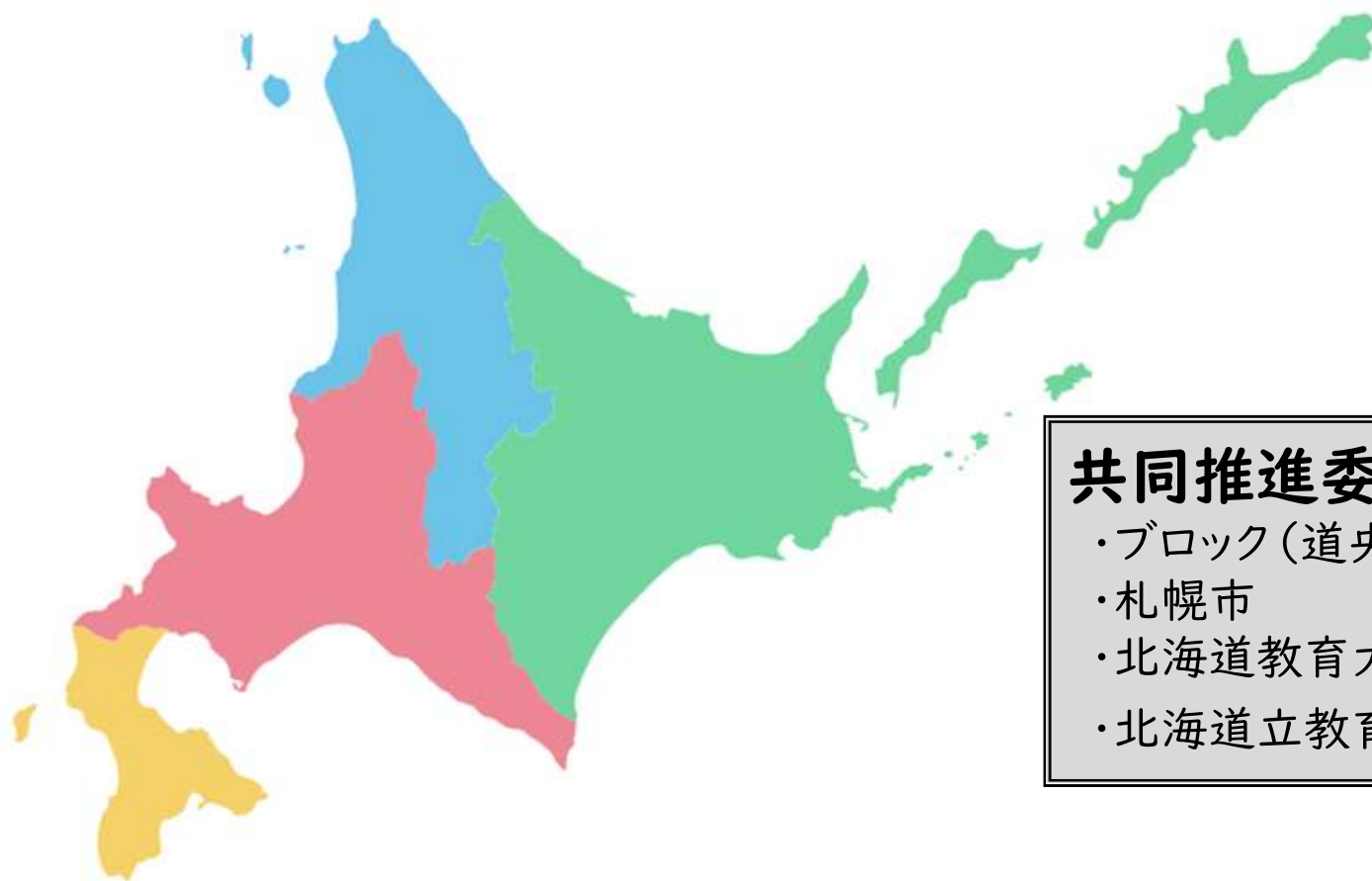
# 内 容

- 1 北海道教育研究所連盟 共同研究について
- 2 第18次共同研究の概要について
- 3 第19次共同研究の概要について
- 4 第19次共同研究1年次の取組について

# Ⅰ 北海道教育研究所連盟 共同研究について

## 【目的】

加盟機関の研究成果を交流するとともに、研究主題に係る研究協議を通して、北海道教育の充実・発展に資する。



### 共同推進委員 12名

- |                    |     |
|--------------------|-----|
| ・ブロック（道央・道南・道北・道東） | 各2名 |
| ・札幌市               | 1名  |
| ・北海道教育大学           | 1名  |
| ・北海道立教育研究所         | 2名  |

## **2 第18次共同研究の概要について**

## 2 第18次共同研究の概要について

# 一人一人の子どもを主語にする学校教育の実現に向けて

### 【ねらい】

各教育研究所・研修センターがより連携・協働できる体制を整備し、学校支援のために活用する、個別最適な学びと協働的な学びの実践事例の収集・提供をすることにより、**子どもの主体的な学びを支援する伴走者としての教職員の能力の向上に資する。**

### 【研究内容1】

**全ての子どもたちの可能性を引き出す**

**「個別最適な学び」と「協働的な学び」**

### 【研究内容2】

**子どもの成長を支える連携・協働体制の構築**

道研連加盟機関である各教育研究所・研修センターの

## 2 第18次共同研究の概要について

### 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の 一体的な充実に向けて

#### ○ 授業において大事にしたいこと

##### A 子どもが「自分（たち）で学び取る」授業

→ 目的に合わせた端末の使い方や学習スタイルの選択等、  
学び方を学べる工夫

##### B 子どもの「興味・関心」や「問い」を大事にした授業

→ 必要感のある課題設定や単元（題材）計画、教師の発問や  
声かけの工夫

##### C 子どもが安心して、進んで取り組める授業

→ 学習の土台づくり（望ましい人間関係の構築、学習ルール  
や基本的・基礎的な知識及び技能、ICTのスキル等）

# 2 第18次共同研究の概要について

小学校国語科 渡島教育研究所（北斗市立浜分小学校）  
キーワード ひとりひとりが主体的に読み取る、物語の世界

単元名  
表現の効果について、考えを広げよう  
「雪わたり」  
第5学年

## 1 単元の見通し

表現の工夫とその効果に着目して物語を読み、その魅力について伝え合うことを通して、自分の考えを広げる。

## 2 単元の評価規準

| 知識・技能                   | 思考・判断・表現                                                                                                                                                                                  | 主体的に学習に取り組む態度                                               |
|-------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------|
| ① 比喻や反復などの表現の工夫に気付いている。 | ① 「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の工夫を考えたりしている。<br>② 「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。<br>③ 「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にしている。 | ① 進んで表現の工夫や登場人物の関わりを読み、学習の見通しをもって『雪わたり』の魅力を紹介する文章を書こうとしている。 |

## 3 指導と評価の計画（全8時間）

| 時間 | 学習活動                                                         | 評価規準（評価方法）             |                                                                           |                                   |
|----|--------------------------------------------------------------|------------------------|---------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------|
|    |                                                              | 知識・技能                  | 思考・判断・表現                                                                  | 主体的に学習に取り組む態度                     |
| 1  | ○ 単元扉を読んで、学習の見通しをもつ。<br>○ 本文を読み、心に残ったところを交流したり、登場人物を確かめたりする。 |                        |                                                                           | ①学習の見通しをもち、表現の工夫を見付けようとしている。（ノート） |
| 2  | ○ 登場人物の会話や行動をもとに、どんな人物かを考える。                                 |                        | ①中心人物の発言について人物像から読み取り、具体的に想像している。（ワークシート）                                 |                                   |
| 3  | ○ できごとを確認する。<br>○ 物語の最初と最後では何が変化したかを考え、話し合う。                 |                        | ①物語の筋やできごとについて筋道から読み取っている。（ワークシート）                                        |                                   |
| 4  | ○ おもしろいと思う表現の工夫を探す。                                          | ①表現の工夫に気付いている。（教科書）    |                                                                           |                                   |
| 5  | ○ 表現の工夫や効果について、考えたことを紹介し合う。                                  |                        | ①表現の工夫やその効果について考えている。（ノート）<br>②表現の工夫やその効果について、友達との交流を通して考えを広げている。（ワークシート） |                                   |
| 6  | ○ 表現の工夫に着目して、『雪わたり』の魅力を紹介する文章を書く。                            | ①表現の工夫に気付いている。（ワークシート） | ③目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを             |                                   |

○ A 子どもが「自分たちで学び取る」授業・追究の手段は個々に任せ（一人で、友達と、辞典を引く、インターネットで調べる等）、自分にとって最適な手段を考える活動を一年を通して各教科で行った。本単元では主に2・3・4時間目が該当するが、他の時間にも必要に応じて自ら調べたり友達に相談したりする姿が見られた。

|   |                     |      |                                                                 |                                                         |
|---|---------------------|------|-----------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------|
| 7 | ○ 紹介文を読み合い、感想を伝え合う。 | 情報交流 | 明確にしている。（ワークシート）<br>②表現の工夫やその効果について、友達との交流を通して考えを広げている。（ワークシート） |                                                         |
| 8 | ○ 学習を振り返る。          | 振り返り | ①学習を振り返り、表現の効果について考えている。（振り返りシート）                               | ①見通しをもって学習に取り組む、『雪わたり』の魅力を紹介しようとしたかを考えようとしている。（振り返りシート） |

## 4 本時案（4/8）

### (1) 本時の目標

『雪わたり』に使われている表現の工夫を探す。

### (2) 本時の展開

| 時            | ○学習活動・児童の反応                                                                                                                                                                             | ◇留意点 ☆評価                                                                                                                                         |
|--------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 導入<br>13分    | ○ 「リズムのある表現」「たとえを使った情景びょうしゃ」が『雪わたり』の魅力のひとつであることを確認する。<br>おもしろい表現のくふう「リズムのある表現」「たとえを使った情景びょうしゃ」を見つけよう。<br>・大理石よりもかたくなり<br>・かた雪かんこ、しみ雪しんこ                                                 | ◇P65「ここが大事」から、五音・七音のリズムの良さと、何が何にたとえられているかを読み取ることで、情景を思い浮かべられることを示唆する。<br>◇「おもしろい」という言葉の捉え方を確認する。                                                 |
| 展開<br>30分    | ○ 「リズムのある表現」「たとえを使った情景びょうしゃ」に線を引く。可能な範囲で、「リズム」と「たとえ」で分けておく。<br>・リズムのある表現は波線にしよう。<br>・赤と青で色分けしておこう。<br>自分で見つける。<br>友達と一緒にみつける。<br>○ 一番好きな表現を、「リズム」「たとえ」からひとつずつ選び、班ごとに紹介し合う。<br>（※必要に応じて） | ◇「もくもくタイム」を確認し、個別でじっくり読む時間を意識させる。<br>◇見つけきいたら必ず3人以上と交流することを確認しておく。<br>☆表現の工夫に気づき、探すことができています。【技法/教科書】<br>◇児童の様子を観察し、個人内での活動停滞が見取れた場合には交流の場を設定する。 |
| 終<br>末<br>2分 | ○ 今日の学習を振り返る。<br>・いろいろなたとえの表現があった。<br>・友達の考えもメモすることができた。<br>・キックキックトントンが、繰り返して出てきた。                                                                                                     | ◇次回の学習計画を確認する。                                                                                                                                   |

## 5 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に係る授業改善のポイント ～ひとりひとりが主体的に読み取る、物語の世界～

○ 単元計画（単元の終わりに目指す姿、その時間ごとの学習内容や評価規準・基準）を児童と共有して毎時間振り返りを行い、ひとりひとりが学習を自己調整する環境を整える。

○ 課題を追求する方法は個々に任せ、他者の意見に照らす時間が最終的にゼロにならないよう配慮する。※もくもくタイム

○ C 子どもが安心して、進んで取り組める授業  
・「友達と協力したい」だけでなく、「一人でじっくり考えたい」児童の学びを保障する。  
・「開始から3分は1人で思考整理（もくもくタイム）→その後は高移動や話し合い等の活動は自由だが、名札を机の上に置いた子には話しかけない」ルールを設けた。

## 2 第18次共同研究の概要について

### C 子どもが安心して、進んで取り組める授業

#### ○ 子どもが進んで自分の考えを表現するための工夫

小学校第3学年 国語科「場面をくらべながら読み、感想を書こう」

|        |                                                                                                                                                                                     |                                                                |
|--------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------|
| 展<br>開 | <p>○ 2場面の時、場所、登場人物、様子を見つけて書く。</p> <p>C 子どもが安心して、進んで取り組める授業</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・自分の学習ペースに合わせて、ワークシートを選択させる。</li><li>・ICT 機器を使用する際、音声入力も活用できることを伝える。</li></ul> | <p>◇ <u>ワークシート</u>を、紙媒体かICT機器 (Tomolinks) のどちらで書くのかを選択させる。</p> |
|--------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------|

☆教材を複数用意し（紙ワークシート・デジタルワークシート）、児童が自分の学びに合った手段を選択できるようにする。

● 三場面で心にのこった場面や文から、ちいちゃんの気持ちを考えて書きましょう  
☆心にのこった場面や文

はぐれてしまったお母さんたちが「ここに帰  
つて来るの」と言っているところがよく考え  
た。

北海道教育研究所連盟ホームページ  
「共同研究 R7実践事例バンク」

URL: [https://www.dokenren.hokkaido-c.ed.jp/kyodo/page\\_20260225023214](https://www.dokenren.hokkaido-c.ed.jp/kyodo/page_20260225023214)



## 2 第18次共同研究の概要について

### 事例1 「2つの教育研究所による合同研修会の実施」



#### <連携・協働に係る取組>

近隣にある2つの教育研究所で研修会を共催した。

#### <連携・協働することにより考えられるメリット>

##### ○ 大規模研修の実現

- ・会場費や講師謝礼等のコストを分担することができるため、より規模の大きい研修を実施しやすくなる。

##### ○ 運営者の負担軽減

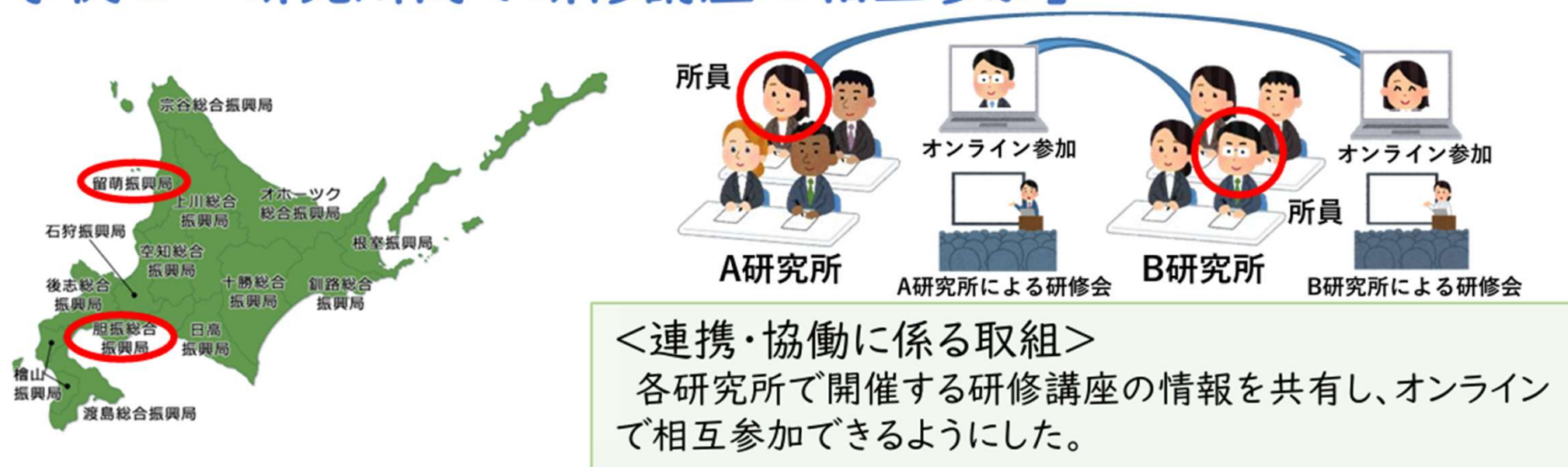
- ・運営に当たる人数が増え、事務作業や当日の役割を分担することができるため、運営者の負担が軽減される。

##### ○ 交流の活性化

- ・所属の研究所を越えたネットワークが形成されるため、所員の交流が活性化する。

## 2 第18次共同研究の概要について

### 事例2 「研究所間で研修講座の相互参加」



#### ＜連携・協働することにより考えられるメリット＞

##### ○ 研修機会の拡大

- ・他地域の研修に参加できるため、多様な教育実践や新たな視点の獲得につながる。

##### ○ 研修内容の充実

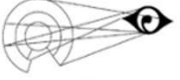
- ・各研究所・センターが持つ専門的知見や実践事例を共有できるため、研修内容の質の向上が図られる。

##### ○ 効率的な研修運営

- ・研修会の運営に係るノウハウを共有できるため、効率的に運営できる。

## 2 第18次共同研究の概要について

北海道教育研究所連盟 共同研究推進委員会 第18次共同研究 リーフレット



# 一人一人の子どもを主語にする 学校教育の実現に向けて

～全ての子どもたちの可能性を引き出す「個別最適な学び」と「協働的な学び」～



このリーフレットは、全ての子どもたちの可能性を引き出す「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた実践事例を掲載し、日常の授業づくりや校内研修のヒントになるよう作成したものです。

### 主な実践事例

- A 子どもが「自分（たち）で学び取る」授業**  
小学校 第5学年 体育科、小学校 第2学年 国語科 →P. 2
- B 子どもの「興味・関心」や「問い」を大事にした授業**  
小学校 第4学年 国語科、中学校 第3学年 理科 →P. 3
- C 子どもが安心して、進んで取り組める授業**  
小学校 第5学年 国語科、小学校 第3学年 国語科 →P. 4

共同研究推進委員会  
令和8年3月

北海道教育研究所連盟ホームページ  
「共同研究」



<https://www.dokenren.hokkaido-c.ed.jp/kyodo>

### **3 第19次共同研究の概要について**

## 北海道研究所連盟としての課題感

### 児童生徒について

- ・ 自分で課題を設定し、解決に向けて自律的に取り組むなど、学習を調整する力の不足
- ・ 学習内容の定着の不十分さ
- ・ 自分の考えを他者に伝える力
- ・ 他者の意見を聞き自分の考えを深めるなど、他者と関わりともに解決する力の不足

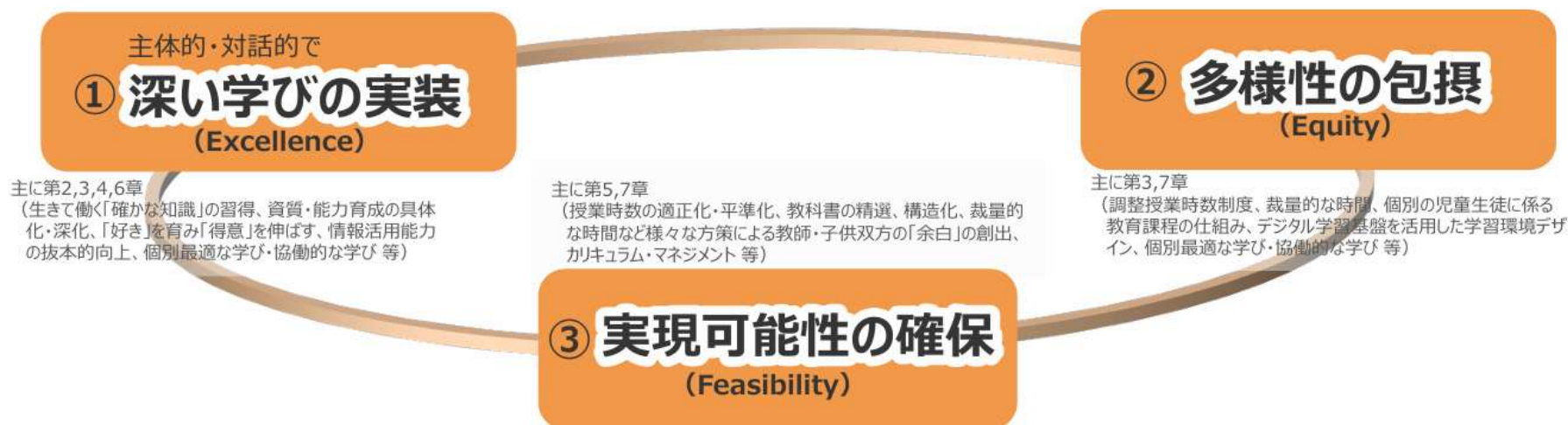
### 教員について

- ・ 教員主導の授業スタイル
- ・ 個別最適な学び・探究的な学びの具現化不足
- ・ ICT活用スキルの格差
- ・ 研修参画意識の差
- ・ 組織的な連携不足

### 3 第19次共同研究の概要について

## 次期学習指導要領に向けた検討の基盤となる考え方

～あらゆる方策を活用し、三位一体で具現化～



学びをデザインする高度専門職としての教師 デジタル学習基盤をはじめとする基盤整備  
「裁量的な時間」をはじめ柔軟な教育課程による余白 総合的な勤務環境整備

多様な子供たちの「深い学び」を確かなものに

生涯にわたって主体的に学び続け、多様な他者と協働しながら、  
自らの人生を舵取りすることができる 民主的で持続可能な社会の創り手 をみんなで育む

### 3 第19次共同研究の概要について

「主体的・対話的で深い学び」の実現を通じた

補足イメージ1-②

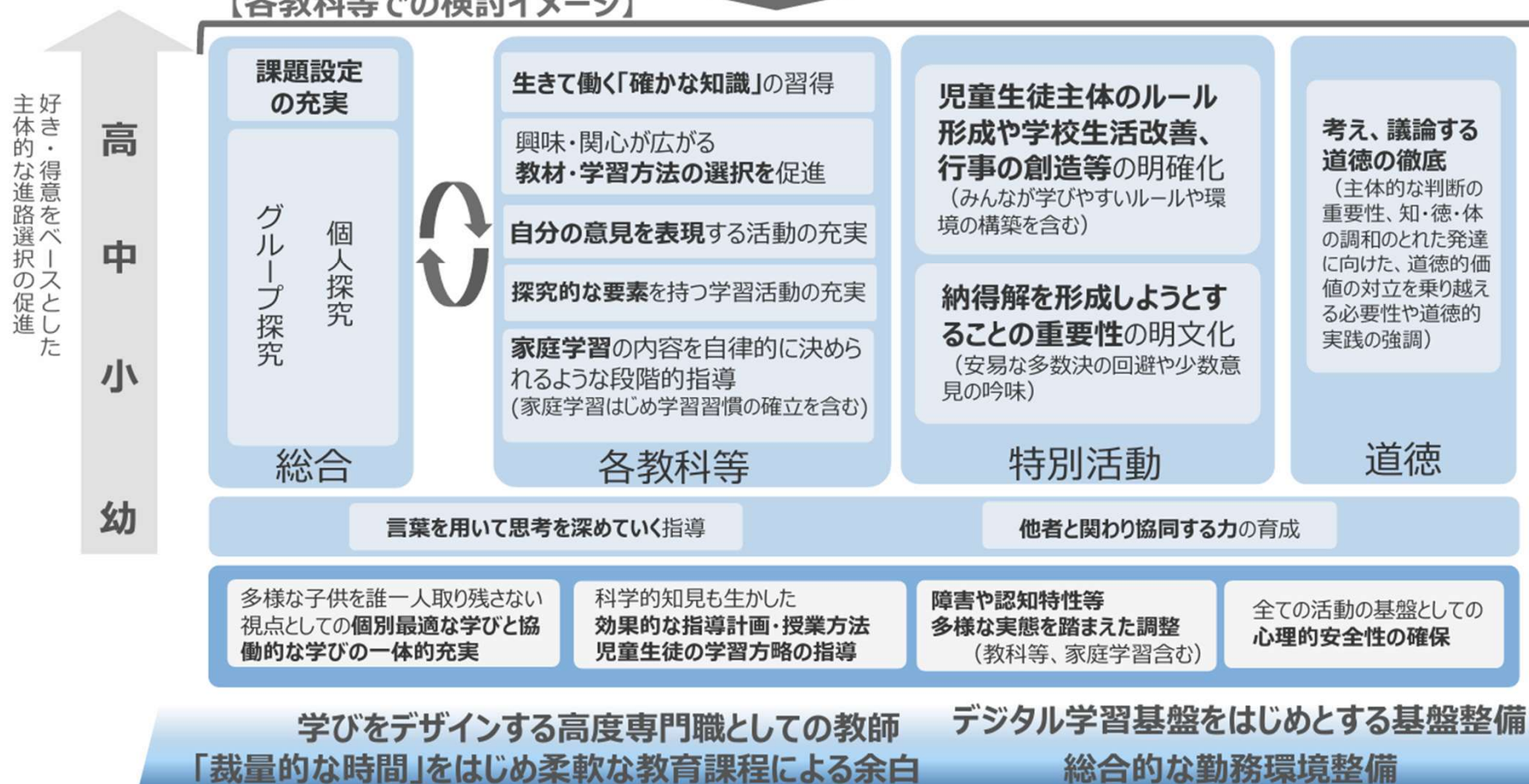
**自らの人生を舵取りする力**と**民主的で持続可能な社会の創り手**育成（今後の検討イメージ）

「好き」を育み、「得意」を伸ばす  
（興味・関心）



当事者意識を持って、自分の意見を  
形成し、対話と合意ができる

【各教科等での検討イメージ】



※本イメージ図は、自らの人生を舵取りする力と民主的で持続可能な社会の創り手育成という今後の検討の一部を資料化したものであり、学習指導要領の改訂に関わる全ての要素を網羅する性質のものではない

## 「学びに向かう力、人間性等」に係る現状と課題

- 自律的に学ぶ自信がある子ども
  - 自分で課題を立て探究に取り組む子ども
  - うまくいくか分からないことに意欲的に取り組む子ども
  - 自分の考えを持つ子や夢を持つ子ども
- の割合が低い

#### 研究主題

## 自律的に学ぶ子どもを育てる 授業づくりの充実

#### 【ねらい】

「自ら問いを見いだし、解決に向けて試行錯誤しながら学びを深める子ども」の育成に資する実践事例の収集・提供をすることにより、道内における授業改善の推進を図る。

#### 【目指す子ども像】

自ら問いを見いだし、解決に向けて試行錯誤しながら、学びを深める子ども

#### 研究主題

## 自律的に学ぶ子どもを育てる 授業づくりの充実

#### 【研究内容】

「主体的・対話的で深い学び」の実装、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実の視点から、協議・実践、事例収集等を行う。

〈1年次〉 **単元・題材構想**の在り方について

〈2年次〉 **授業展開**の在り方について

〈3年次〉 **学習評価**の在り方について

## 4 第19次共同研究1年次の取組について

## 4 第19次共同研究1年次の取組について

### 第1回推進委

自律的に学ぶ子どもの姿の共有、  
単元・題材構想のイメージの共有

### 授業の構想・実践

### 第2回推進委

検証授業の交流

### 実践資料の作成

### 第3回推進委

実践事例を踏まえた  
単元・題材構想の在り方のまとめ

- 「『主体的・対話的で深い学び』の実装」、  
「『個別最適な学び』と『協働的な学び』の一体的な充実」の視点から、  
単元・題材構想の在り方について協議・実践し、  
事例をまとめる。

### 【1年次のゴール】

- 「自律的に学ぶ子どもを育てる単元・題材構想」について  
の実践事例の作成、普及・還元  
(道研連Webページの掲載・リーフレット等作成)

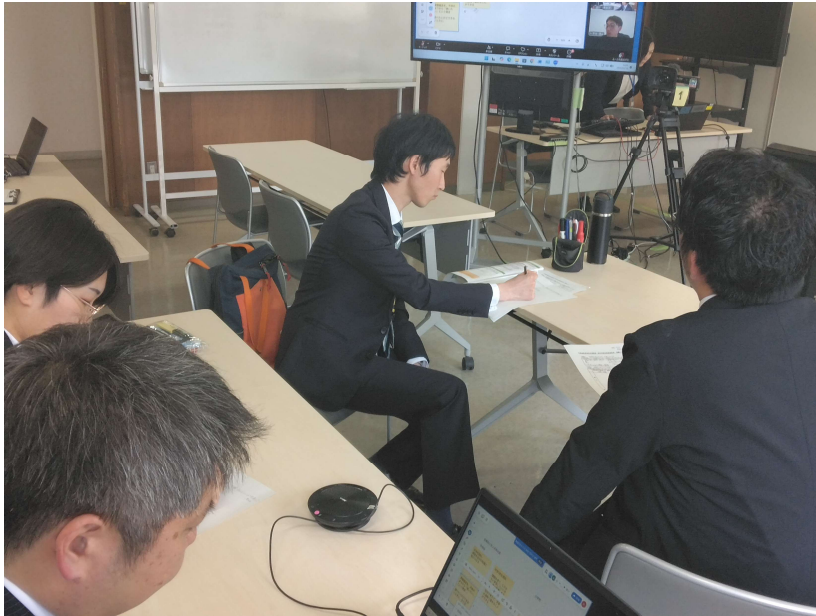
R8

# 4 第19次共同研究1年次の取組について

## 第1回共同研究推進委員会（令和8年5月18日開催）

Zoomのホワイトボード機能を用いた交流・協議

〈自律的に学ぶ子どもの姿のイメージ〉



### 自律的に学ぶ子どもの姿

#### 【導入】

札幌市ではイントロダクションと位置付けて重視している。  
課題を自分事としてとらえられるような、わくわくする導入を大切にしている  
個別探究と協働探究

ほかの児童との  
練り合いで考え  
を深めたり、気  
付きを得たりす  
る

#### 【導入】

見通しをもつ  
前時や昨年の同領域での学びと  
目の前の学びの共通点や差違点  
を見つけられる子

単元全体を考える力  
がある子ども  
自由進度学習などの  
場面で見られた

自分で学び方を含めて  
振り返ることができる

#### 【算数】

これまでの学びと今日の学  
びがどう違うのかがわかる  
見通しながら個で考えてい  
る  
試行錯誤して、いろいろな  
学び方を使っている子

総合等で教科横断的  
な学びを自ら想起し  
ている場面が見られ  
た。  
国語で学んだリーフ  
レットづくりなど、  
ほかの教科で学んだ  
ことを生かしてい  
た。

#### 【振り返り】

自分の現在の到達点  
を自覚するためには  
リフレクションが大  
切である。

ラーニングマウン  
テン（研究所の研  
究）  
→自分たちで物事  
を考える力がつい  
た

# 4 第19次共同研究1年次の取組について

## 第1回共同研究推進委員会（令和8年5月18日開催）

Zoomのホワイトボード機能を用いた交流・協議

〈単元・題材の工夫〉

ラーニングマウンテン、学び方の共有

どのレベルの子供をイメージするか

苦手な子供が興味を持てるような、身近な話題を提供

例  
運動会で活躍するために、イオンが体の中でどんな役割をしてくる？美容には？

協働しない内容や指導事項において、どんな対話や協働ができるか。

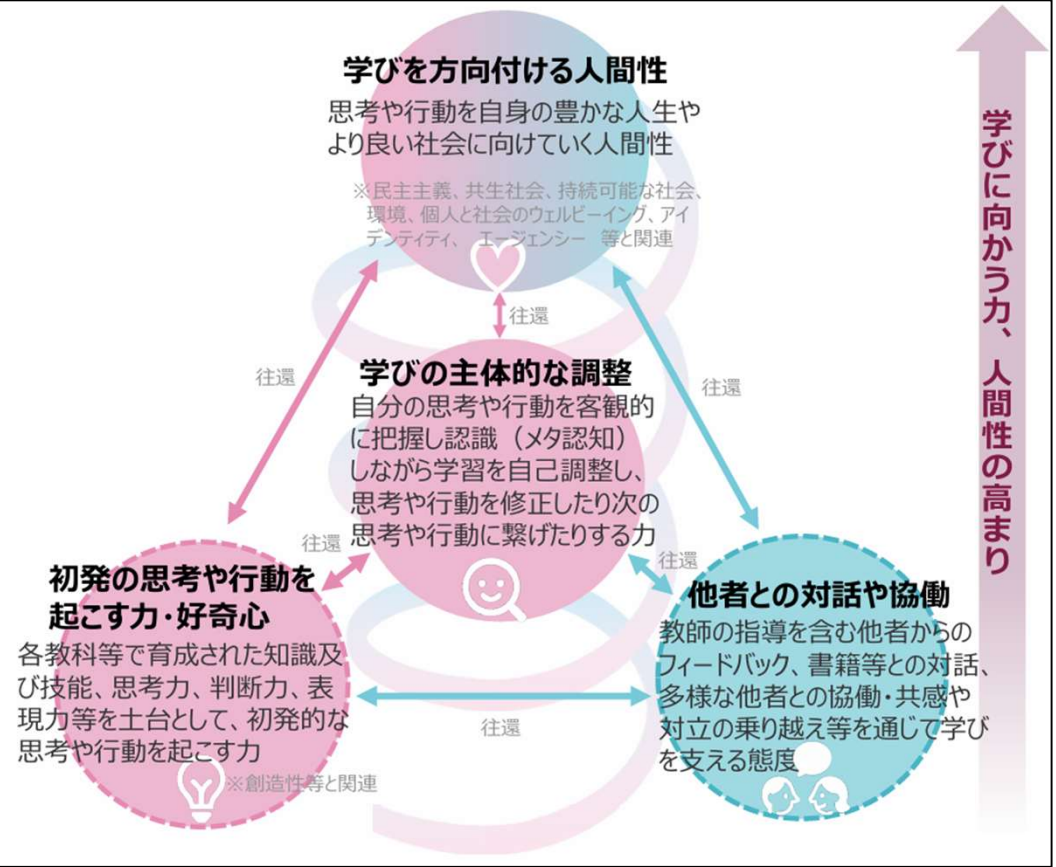
「調整学習」をするためにうまくいかなかったときに、「戻る」ことができる。戻ることができる時間を確保する。

・単元内に縛られず、前の単元や、前の学年にも、戻ることができる。

・授業時数との兼ね合い

・様々な考え方や方法があり、研究の余地がある。

|    | 思考・行動                                                                                                                                                                                                                                                                   | 調整                                                                                                                                                                                                                                             | 協働                                                                                                             |
|----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 導入 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・単元を貫く課題</li> <li>・初発の思考や行動、好奇心のために、導入に始まって、単元の関ずっと続く課題</li> <li>・章ごとに、「課題に対して、ここまで考えてほしい」ということを共有し、学習をたどっていく。章の終わりに章を振り返るようになる。</li> <li>・国語 物語との出会いで、子供たちに問いをもたせる。</li> <li>・既習の内容や知識を想起させる工夫。それを活用して、次の学びへと連続していく。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分がどれだけ知りたいと感じているか、深めたいと感じているかを、言語化する。学びたいこと、学び方など、学びの道筋を立てる。</li> <li>・導入時にルーブリックを活用してみるのは難しい？</li> <li>・単元の最後の到達したい目標の共有には使えるが、単元の導入ポイントで、というのには難しい。</li> </ul>                                      |                                                                                                                |
| 展開 |                                                                                                                                                                                                                                                                         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返りをデータで行うことで、ほかの人がどんなことを書いているのか、振り返っているのかを、参照できる。</li> </ul>                                                                                                                                         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・体育で、自分はもちろん、友だちと見合ったり、指摘し合ったりして、互いによりよくしていくという交流。</li> </ul>           |
| 終末 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学んだことを次の単元や内容に生かして、つなげていく。</li> </ul>                                                                                                                                                                                           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの学びや振り返りを蓄積し、活用したいときに活用できる。自分の学びを見つめなおすことで、課題と向き合うことができる。</li> <li>【iPad（ロイロノート）を活用】データ上にノートを作ることができる。</li> <li>・スプレッドシートを活用して、一覧性のある振り返りを積み重ねる。</li> <li>・ワークシート（一枚ポートフォリオ）に記載して積み重ねる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校低学年体育遊びの場を複数提供する。それぞれがやりたいものに取り組みるように場を設定することで、協力的に取り組む。</li> </ul> |



中央教育審議会教育課程企画特別部会「論点整理」（令和7年9月25日）から抜粋

## 4 第19次共同研究1年次の取組について

### 実践授業（予定）

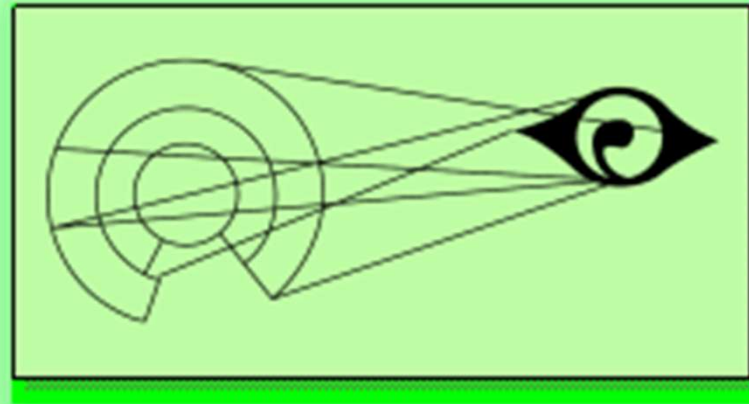
| 学年      | 教科（領域）      |
|---------|-------------|
| 小学校第2学年 | 算数          |
| 小学校第3学年 | 理科（地球領域）    |
| 小学校第4学年 | 体育          |
| 小学校第5学年 | 国語          |
| 小学校第6学年 | 社会          |
| 中学校第1学年 | 理科（粒子領域）    |
| 中学校第1学年 | 英語          |
| 中学校第2学年 | 理科（生命領域）    |
| 中学校第3学年 | 理科（エネルギー領域） |

## 北海道研究所連盟 活動内容

|                      |                              |
|----------------------|------------------------------|
| 5月18日(月)             | ■ 第1回 共同研究推進委員会 ※ハイブリッド開催    |
| 6月～10月               | * 検証授業                       |
| 7月31日(金)             | ◇ 夏季所員学習会 ※オンライン             |
| 8月27日(木)<br>8月28日(金) | ■ 第81回北海道教育研究所連盟研究発表大会(釧路大会) |
| 10月20日(火)            | ■ 第2回 共同研究推進委員会 ※オンライン       |
| 10月～12月              | * 実践事例の精査                    |
| 11月                  | ◇ 冬季所員学習会 ※オンライン             |
| 1月8日(金)              | ■ 第3回 共同研究推進委員会 ※オンライン       |

# 《 説明 》

## 共同研究について



期日 令和8年(2026年)8月27日(木)

場所 釧路町公民館

北海道教育研究所連盟共同研究推進委員会